

地域の教育力をどう生かしていくか

～「菊キクネット」初年度の動きから～

【下関市 菊川中学校区】

地域の概要

下関市合併前の旧4町のうちの一つ菊川町は、小月から田部峠を越えた菊川盆地に位置し、菊川そうめんが有名なコンパクトでまとまりのある地域です。「グリーンシャワー」のキャッチフレーズのとおり、華山や中山溪をはじめとする緑や自然が豊かで、地域の人々の教育に対する関心も高く、協力的な地区です。

人口	8,137人	
世帯数	3,160世帯	
対象校及び 児童・生徒数	菊川中学校	203人
	豊東小学校	222人
	岡枝小学校	133人
	檜崎小学校	87人

組織の内容と現状

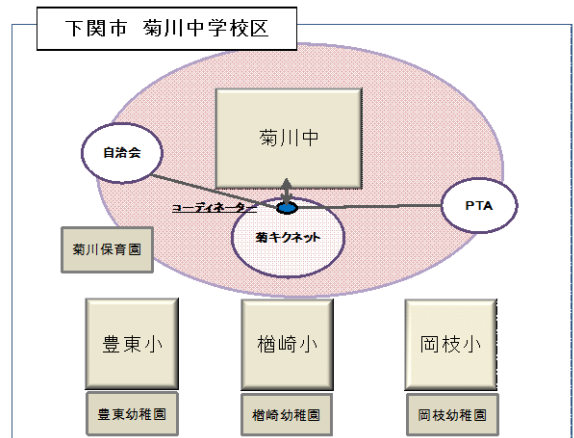
学校現場における教員の業務量の増加に伴う多忙感の解決に加え、地域の人々の自己実現や生きがい作りにつながることを期待し、今年度からふるさと協育ネット『菊キクネット』がスタートしました。

菊川地区は高齢化率が28.5%と高く、約4人に1人が、65歳以上です。全戸を対象とした生涯学習アンケートにも、「あらゆる分野での能力や定年後の人材の活用を望みます。」と書かれている人もいるように、これまで培ってこられた知識や経験を生かす場を求めている方もいらっしゃいました。そのような方々が「地域に作られた学校の応援団」として、自ら進んで学校支援活動に参加できる体制を構築していくことは地域の活性化という点において非常に重要なことです。コンパクトシティである菊川は、以前から地域の様々な団体が3小1中にいるような形で支援してきました。しかしそれらは組織されたものではなく、個別に学校からの要請等に応じてきたものでした。

これらを学校応援団として組織化すると同時に、コーディネーターが学校のニーズの把握と地域の人材活用の両面から調整することで、より地域の教育力を学校に生かすことができ、それが地域協働のまちづくりにつながります。

今年度立ち上がりからかかわってこられたコーディネーターさんが、年度途中で御都合により継続するのが難しくなり、一度活動が停滞しました。そこで急遽後任のコーディネーターさんを探さなければならないという事態になりました。上記のような、地域とのつながりを創出するのがコーディネーターの大きな役割であるならば、地域とのつながりが深い方でバイタリティ溢れる方をお願いする他ないと考え、適任を探していた矢先、春に社会福祉協議会を定年で退かれ、そのまま嘱託としてお勤めになられていらっしゃる方が快く引き受けてくださいました。菊川地区の子どもたちのために、また地域の活性化のためにとリーダーシップを取っていただくことができるようになり今後が楽しみです。ふるさと協育ネットの充実を握る鍵はまさに「人」「つながり」に尽きるという点では、地域のことを熟知し、多くの方を御存知の方をお願いできたということは本当にありがたいことです。

本年度は、菊川中学校にふるさと協育ネット協議会を設置し、学校関係者、学校評議員を主な構成員としてこれまで3度、協議会を開催し、今年度の活動の進捗確認や課題、展望等を協議しています。



ネット 協議会の 構成	学校関係者	4名
	P T A 関係者	1名
	学校評議員	3名
	教育行政関係者	1名
	コーディネーター	1名

主な活動の紹介

- 今年度は初年度ということもあり、菊川中学校における、環境整備（具体的には年4回の校内除草作業）を進めてきました。延べ人数、約30名のボランティアの方々が進んで活動に参加され、中学生やPTAと力を合わせて除草作業に取り組みました。御自宅から草刈り機を担いでこられ、熱心に作業される姿に頭が下がる思いでした。今回の作業にお集りになったボランティアの地域の方々同士の交流も深まったように思います。その中で更に新たな学校支援の方向性が生まれてくることも期待できます。



自宅から持参された草刈り機で



中学生と一緒に側溝の土さらい

- 3学期は、学習活動等の補助のボランティアを募る予定です。
- また、コーディネーターさんの動きとしては、2年次に向けて、地域の様々な方へ本事業のコミーシャルと、どういう特技や技能を学校に生かすことができるのかの聞き取りやつなぎをされているようです。地味な作業ですが、これが次年度へ大きく生きる礎となってくれる事を期待しています。

今後の取組

2年次に向けて年末に開かれた菊キクネット協議会では、今後の事業内容を検討していく中で、①学習活動等の補助 ②来年度夏に補習授業・サマースクールを実施する際のボランティア等が学校側からの要望で挙がってきました。開いている学力差を縮めていくためにも、学習支援の分野での新たな取組も生まれそうです。②においては中学校周辺施設である菊川ふれあい会館（市教育委員会支所）を利用するなど、行政との連携も視野に入れていきます。

また菊川地区では平成18年10月発足の総合型地域スポーツクラブが菊川のスポーツ環境の充実を図っており、運動面でも連携をしながら、子どもたちの健全育成にかかわっていただけるようなシステムを構築していければと考えています。

課題としては、地域の方々のどのような知識や経験を生かすことができるのか、学校側からの要望の視点と地域の方々の思いや願いをすりあわせていくことが必要となり、そのためのボランティア登録なども視野に入れていきたいところです。併せて初年度は菊川中学校内のみで組織したふるさと協育ネット協議会を、3小学校とのより良いつながりの中で再編するなど、中学校区としての菊川全体での学校応援団の組織作りが必要になってきます。

コーディネーターさんにインタビュー

Q：コーディネーターをするようになったきっかけは何ですか？

A：仕事上、前々から地域と学校とのパイプ役が必要だと思っていました。これまでの仕事で、地域の人材に関するネットワークが作られていたので、それを生かして菊川の地域の役に立ちたいと思い引き受けました。今の世の中、子育て支援も非常に重要で、そういった意味合いでも人生の先輩が地域から学校に入ることで、子どもたちの育ちに役に立てばと考えています。